

第廿五回京阪神聯合保育會提出遊戯の歌曲

▽京都保育會

(一) 鳩捕へ (散歩唱歌の譜)

歌詞

一、圓い窓からポッポポッ

白鳩黒鳩茶色鳩

一度に揃ふて下りて來い

皆とお庭で遊びませう

二、可愛い鳩よポッポポッ

褒美に此豆あげませう

食べたたら仲よく巢に歸れ

あしたも亦々遊びせう

遊戯 準備 (一列圓形、半數は
中に入り鳩となる)

圓い窓からポッポポッ

(二人相對し兩手を繋ぎ外方の手を下げ内方
を上げ窓の形を作る)

(鳩は窓より顔を出しポッポポと頷ぐ)

白鳩黒鳩茶色鳩

(窓の形を作れる子供は外方の
手をはなす、鳩は圓外に飛ぶ)

一度に揃ふて下りて來い

(子供は拍手、鳩
は飛び下りる形)

ハ調 (オンク)

5 | 4 5 6 5 | 7 7 7 5 | 4 5 6 5 | 1 1 1 |

(鳩は蹲踞みて靜かに歩む、子供は鳩を追

ひつゝ歩む)

(四ク)

3 1 5 3 1 5 | 7 2 2 | 2 7 5 2 7 5 | 1 3 3 |

3 1 5 3 1 5 | 7 2 2 | 2 7 5 2 7 5 | 1 3 1 |

(鳩は飛び行く、子供はそれを追ふ)

二廻繰返す

可愛い鳩よポッポポッ

(子供は拍手なしつゝ、外圓形となる、
鳩は子供に近づく)

(へ調二拍子) 曲 歌

3.3 1 | 2.1 6.5 | 1.2 3.1 | 2.0 | 3.3 3.3 | 5.3 2.1 | 2.1 6.5 | 5.0 |
 ケフハツレシイ オマツリ ヨ アレアレタイコノ オトガスル

5.5 5.5 | 6.6 6 | 5.3 2.1 | 2.0 | 3.3 1.1 | 2.1 6.6 | 5.1 3.2 | 1.0 |
 オギョー レツモ ミエダシ タ ハヤクー ミンナデオガミマセウ

1. — | 1. — | 1. — | 1. — | 5 3 | 5 3 | 5 — | 5 — |
 ドン ドン ドン ドン ビー ビー ビー ビー

5 6. | 5 6. | 5 6. | 5 6. | 3 — | 5.0 | 3 — | 5.0 |
 チリン チリン チリン チリン ケン チコリン ケン チコリン

1. 6 | 1. 6 | 1. 6 | 1. 6 | 1. 6 | 1. 6 | 5 1 |
 ワッサイワッサイワッサイワッサイワッサイワッサイ ワッ サイ

(二) お祭り

褒美に此豆あげませう (子供は豆をやる形)
 食べたら仲よく巢に歸れ (鳩は食べる形)
 あしたも亦々遊びませう (子供は窓の形を作る)
 (子供は巢の中に入る)
 (子供と鳩は互に禮をなして交代す)

一今日は嬉しいお祭よ あれ〜太鼓の音がする

お行列も見えだした 早く皆でお拜ませう

ドン〜

ビー〜

チリン〜

ケンチコリン〜

ワッサイ〜

ワッサイ〜

遊 戲 準備 (豫め二人づゝ組合を定め行進の用意をなす)

今日は嬉しいヨリ 皆でお拜ませうマデ (唱ひながら一列行進をなす)

太鼓 (兩手を握り太鼓を打つ形をなしつゝ歩む)

笛 (兩手にて笛を吹く形をなしつゝ歩む)

金棒 (兩手を軽く握り金棒を引く形をなしつゝ歩む)

劍鋒 (兩手にて鋒を持つ形をなし一歩一歩爪立てゝ歩む)

御輿 (二人互に手を組みがろつぶをなしつゝ圓外に去る)

▽大阪市保育會

お馬

お馬ひん／＼ばか／＼とべよ

山でも岡でも一とびに

とび越え／＼勢こめて

進めよ／＼日本のお馬。

お馬

ハ調二拍子 (大正幼年唱歌第一集一九頁)

5	6 5	3	1	2. 2 1 2	3 3 2 0
オ	ウマ	ヒン	ヒン	バカバカ	トベヨ
3. 3 5 6	5. 5 i 6	5. 6 5 3	1	0	
ヤマデモ	オカデモ	ヒトトビ	ニ		
2. 3 2 1	2. 3 2 1	2. 1 2 3	5 6 5 0		
トビコエ	トビコエ	イキホヒ	コメテ		
i. i 6 5	i. i 6 5	3. 3 2 5	3 1 1 0		
ススメヨ	ススメヨ	ニホンノ	オウマ		

一、二列縦隊(男兒は内側女兒は外側)をつくり通常行進にて圓形をつくる(但し各組凡一間位の間隔を置くこと)

二、禮を終りピアノの合圖によりて男兒は其位置に留まり女兒は馬を作るべき木製煉瓦を運び女兒協力して木馬をつくる(但し女兒の木製煉瓦運搬は一度に五個宛とし三回に運び終るものとす。

三、木馬を作り終れば早き者より順次二列縦隊に
ならびピアノによりてスキップを成しつゝ馬の
周圍を一週し合圖によりて男兒は各自己製作の
馬に乗る此時女兒は日の丸の旗を取り來り組合
となりたる男兒の許に立つ

四、女兒は旗を肩にして唱歌し後スキップにより
て其のまはりを一週す此時男兒は馬の唱歌を勇
ましく歌ふ元の位置にかへれば合圖によりて男
兒は靜に馬より降りて女兒の右に列び禮をなす

合圖によりて女兒は直に旗を元の位置にかへす
五、ピアノの合圖によりて男女兒協力して自己の

馬に用ひたる木製煉瓦を最初の位置へ持ち歸り
第一節の如き二列縦隊を作りて此遊戯を終る

一、細い雨がざあ／＼／＼

太い雨がざあ／＼／＼

さら／＼ざあ／＼雨が降る

可愛い小鳥が羽ひろげ

傘もさゝずに飛びまはる

二、亞鉛の屋根にてん／＼

軒の雨滴とん／＼／＼

てれ／＼とん／＼雨が降る

天の神様賑かに

琴や太鼓で囃される

三、高下駄はいてこと／＼

低下駄はいてびしよ／＼

こと／＼／＼元氣よく

雨は止まずに降つたとて

かうして毎日参りませう。

雨

へ調二拍子

5 5 3212	3 5 5	5 5 3212	3 5	5
6.6 5 2	5434	13	1 1 1 1	1 5 3
3 5 5	3 5 5	2 2	2	0
(一) ホソイ (二) とたん の (三) タタガダ	アメガ アメガ ヤレハイ	かに テ	サテラ サテラ んん コト	サテラ んん コト
1 3 3	1 3 3	6 6	6	0
フトイ のきの の ヒクガダ	アメア あま かい ハイ	ザア ザア とん ン ビシヨ	ザア ザア とん ン ビシヨ	ザア とん ビシヨ
5 12 32	5 3 0	5 32 36	5	0
サラー サラー てんてん コト	ザア ザア とん とん コト	アア ガガ あめ め ンキ	フガ ルが るイ	ル るイ
1 23 52	3 5 5	3 21 62	5	0
カハハ てんてん アメ	イコ のの ハヤ	トミ リ さズ	モマ ニ	ハ ゲに テ
5 12 321	2 5 5	3 6 5.5	1	0
リサモサ とーやー カウシテ	サイ イ	ズニ ニ	ハハ マハ マ	ル セウ

前奏

前半出してひつこめて二回

雨 (準備 右向 一列圓形)

第一節前半にて左足を前につま先を上げ

半にて左足を後に引きつま先を付け踵を

上體を稍々後に目は上を見る(手は腰)後

上げ體は稍々前方に傾く第二節にて三步

前進 第三、四節は右足にて同じ事をなす
後半全體圓心に向ひ手を繋ぎ三歩前進もとの位置に返り足踏手を下す。

一、細い雨 が(圓心に向ひ直立)

サラくく (兩手を以て雨の靜に降る形をなす)

太い雨 が(圓心に向ひ直立)

ざあくく (雨の勇しく降る形をなす)

さらくくざあくく (前節の反復)

雨が降る (拍手)

可愛い小鳥も羽ひろげ (右向ケ兩手ヲ横ニ上グ)

傘もさゝずに飛びまはる (兩手を上下しつゝ躍跳)

間奏 前奏に等し

二、とたんの屋根に(圓心に向ひ直立)

てんくく (兩手を前に出し掌を下に手首を屈すること三回)

軒の雨だれ(圓心に向ひ直立)

とんくく (其場に跪きてんくくに同じ動作をなす)

てんくくとん (前節反復)

雨が降る (拍手)

天の神様賑かに(右手を高く指さし空を眺む)

琴や太鼓ではやさされる (右向左右交々舉手跳躍)

間奏 同前

三、高下駄はいて(手ヲ腰ニ上グ右向)

コトくく (高足二回)

低下駄はいて(其の姿勢にて靜止)

ビシヨくく (すり足二回)

コトくく (元氣よく(高足四回))

雨はやまらずに降つたとて(通常行進)かうして毎日まゐりませう(同)

▽神戸市保育會

手まりの歌 (明治三十八年六月當市より本會へ提出の歌再記)

一、白いからだにきるものは

赤權黄にみどり青

そうしても一つ紫で

私のてまりは美しい うつくしい

二、顔もからだもまんまるで

少しのかどもふちもない

そうしてみがるでよく動く

私のてまりはあいらしい あいらしい

(へ調二拍手) 六つの球

5.5 5 | 3.3 3 | 1.1 1 | 5.5 5 | 5.5 1 2 | 3 3. 3 | 5 3. 1 | 2 2 2 0 |

ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ フレベルセンセイノ 六ツノタマハ

5.5 5 | 3.3 3 | 1.1 1 | 5.5 5 | 5 1. 2 | 3 3 | 5.5 3 1 | 2 3 1 0 |

ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ニツノヤウ ナ キレイナイロデ

2.2 2 | 5.5 5 | 1.1 2 | 3.3 3 | 5.5 5 5 | 3.3 2 1 | 3.3 2 1 | 2 2 2 0 |

ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ、 マルクテ カルクテ ヨクヨクウゴク

5.5 5 | 3.3 3 | 1.1 1 | 5.5 5 | 5.5 1 2 | 3 3 | 5.5 3 1 | 2 3 1 0 |

ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ガトサヌ ヤウ ニ オラタシシマセウ

方 法 (各自六色の球一個づゝ右手に持て) 行進

一、よいやさ〜 (右手に球の糸を持ちて高く掲げつゝ中心に集る)

フレベル先生の六つの球は(元の位置にかへる)

よいやさ〜 (球の糸を左手に持かへて高く上げつゝ中心に集る)

虹のやうなきれいな色で(元の位置にかへる)

よいやさ〜 (球を右手に持ちかへて掌を互に上下しつゝ球を軽くうつ)

まるでかるくてよく〜うごく (同上になしつゝ一回まはる)

よいやさ〜 (両手にて膝を打つ)

おとさぬやうにおわたしませう (同上最後ニ右手ニ持タル球ヲ右隣ノ幼児ノ左手ニ渡シ左手ニハ右ノ幼児ヨリ球ヲ受ク)

右終り幼児は其球を握り右手にて十まで數へて手を伸ばし大きく圓く動かし終れば合圖により二三歩前に進みて其球を出来るだけ高く抛げあげてもとの位置に歸り合圖により其球を一個づつ拾ひ次には左手にて同一の運動を繰り返し再び高く抛げ上げて又合圖にて拾ひ取れば赤樺黄緑青紫の旗の下に各兒集合して各小圓を作りし後手まりの歌を歌ひつゝ行進を始めて順々に大なる圓に復す

(ニ調二拍子) 宿がへ

5	3	3	5	3	3	5	5	3	1	2	5	5	0		
ウ	サ	ギ	ウ	サ	ギ	オ	ヤ	ド	ヲ	カ	ハ	ロ			
6	7	1	6	5	3	1	2	3	3	2	5	1	1	1	0
オ	ヤ	ド	ヲ	カ	ハ	ル	ハ	ハ	ヤ	イ	ガ	カ	チ	ヨ	

方法

二組に分れて互に圓を作り摸擬すべき物の名を定め歌の終りまで拍手し兎にても龜にても汽車電車にても凡て其物の特徴を捕へて摸倣しつゝ、互に其場所をかはる、換りたる後は早く圓を作りたる方が勝なり。

うさぎく

お宿をかはる

お宿をかはるは

早いがちよ

無題 (ボオル・ヴェルレエン)

空は屋根のかなたに

かくも静かに、かくも青し。

樹は屋根のかなたに

青き葉をゆする。

打仰ぐ空高く御寺の鐘は

やばらかに鳴る。

打仰ぐ樹の上に鳥は

かなしく歌ふ。

ああ神よ。質朴なる人生は

かしこなりけり。

かの平和なる物のひびきは

街より来る。

君、過ぎし日に何をかなせし。

君今こゝに唯だ嘆く。

語れや、君、そも若き折

何をかなせし。